

大森貝塚

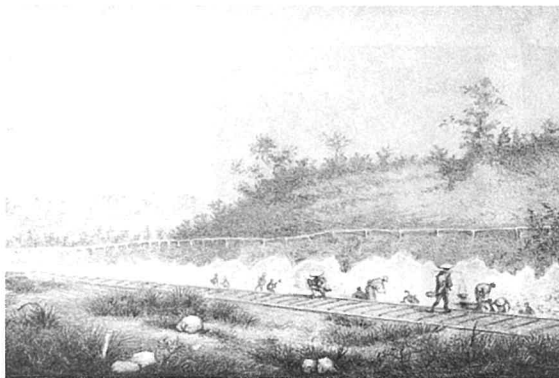
日本考古学発祥の地・大森貝塚

大森貝塚は、明治10年(1877)に日本で初めて科学的な発掘調査が行われた、日本考古学発祥の地である。縄文時代後期から晩期(約4400～2300年前)を中心とする集落を伴う遺跡であり、多種におよぶ貝や魚、動物の骨、土器、石器、人骨など多様な遺物が出土している。昭和30年(1955)には国の史跡に指定されている。

海の恵みをうけた品川の地に、太古から人間が生活していたことを示す証が大森貝塚である。

モースと大森貝塚発掘

大森貝塚を発掘したアメリカ合衆国メイン州ポートランド出身のエドワード・S・モース(1838～1925)は、中学校卒業後、製図工を務める傍ら独学で貝の研究を行い、大学の学生助手や学芸員、大学教授を経て明治10年(1877)に東京大学の初代動物学教授に任命されて来日した。明治10年6月19日、横浜から新橋へ向かう汽車の中から貝殻の堆積を発見し、それが貝塚であることを見抜いたモースは、2回の予備調査を経て、発見からわずか4ヶ月後の10月9日から本格的な発掘調査を始めた。



▲明治10年(1877)10月の大森貝塚発掘風景
("Shell Mounds of Omori"より)

この発掘によって、土器214点、土版6点、骨角器23点、石器9点、貝9点の全261点の遺物が出土し、うち165点が後に重要文化財に指定されている。大森貝塚が日本考古学発祥の地とされる理由には、科学的な知識・目的をもって発掘が行われたことに加え、発掘の2年後の明治12年(1879)に"Shell Mounds of Omori"と和文版『大森介墟古物編』が日本初の発掘調査報告書として刊行されたことがあげられる。

その内容は、多様な項目をあげ、科学的な検証を行うなどしており、当時としては優れた報告書であった。製図は貝をモース自身が描き、他は日本人画工木村青山が緻密に描いているが、モースが加えた鉛筆書きのメモとインクでの図版番号が書かれている。



▲モースが発掘した深鉢型土器
(東京大学総合研究博物館蔵)

その後の発掘

モースの発掘以降、明治18年(1885)に博物学者の南方熊楠が土器や骨を採取し、明治41年(1908)に作家の江見水蔭が遺物の収集を目的とした乱掘を行い、著書である『地中の秘密』の中でその顛末を記している。

学術的な発掘が再び行われたのは、昭和16年(1941)に大山柏を中心とした慶應義塾大学による発掘である。だが、その出土品や記録は戦災で焼失している。

戦後の昭和30年(1955)に大森貝塚は国の史跡指定を受けるが、昭和40～50年代は立ち入りができなかったことなどから次第に荒廃した。これを憂慮した地元の有志らによって大森

貝塚保存会が発足し、保存活動の機運が高まっていた。

その後、品川区によって2度の発掘調査が行われた。昭和59年(1984)の発掘調査では、広範囲の貝層が確認され、モースが未出と指摘していた石鏃や貝製装飾品などを含む多くの遺物が見つかった。また、平成5年(1993)の調査では、貝層のほかにも6軒の住居跡が確認されるという重要な発見もあった。

二つの貝塚碑

大森貝塚発掘の記念碑は2つ存在する。1つは大森貝塚遺跡庭園の「大森貝塚碑」(品川区大井6)で、もう1つはNTTデータビル敷地内の「大森貝塚墟碑」(大田区山王1)である。大森貝塚墟碑は大阪毎日新聞社社長であり考古学者でもあった本山彦一が発起し、大山柏らが中心となり、モースの教えを受けた佐々木忠次郎や石川千代松らの賛同を得て昭和4年(1929)に建立された。一方、大森貝塚墟碑は、東京大学のモース記念事業の一環として、モースとともに発掘に携わった佐々木忠次郎の記憶をもとに、昭和5年(1930)に建立された。

当時、モースが発掘した場所は、発掘調査報告書に正確な場所や遺跡周辺の地図が記されていないことや、その後の景観の変化などによって分からなくなっていた。

しかし昭和52年(1977)、モースが発掘に際して地主・櫻井甚右衛門との間に交わした発掘保証金関係の文書の中から「大井村2960番地

字鹿島^{かしまやつ}谷」(現・品川区大井6丁目)の記載とその付図が発見された。また発掘調査でも縄文後期の貝層や住居跡が大森貝塚碑付近で発見されたことなどもあり、モースが発掘した大森貝塚の所在が裏付けられた。

現在の大森貝塚 一大森貝塚遺跡庭園一

大森貝塚碑を中心とした一帯は、昭和59年(1984)に品川区とモース生誕の地であるアメリカ合衆国メイン州ポートランド市との姉妹都市提携締結を記念して整備され、翌年には大森貝塚遺跡庭園として開園した。さらに平成8年(1996)に敷地を拡張し、現在の大森貝塚遺跡庭園となった。

庭園には学習広場や体験広場が備えられ、大森貝塚碑をはじめ、モースの銅像やポートランド市との姉妹都市提携記念碑も設置されている。また、品川歴史館の展示と同じく貝層の剥離標本も設置しており、区民の憩いの場として、また日本考古学発祥の地を偲んで絶えず人々が訪れている。



▲大森貝塚碑



▲大森貝塚貝層標本(昭和59年発掘)



◀大森貝塚墟碑